



松本市音楽文化ホール

天正遣欧少年使節の物語

プレ・イベント

ローマってどこ？

安土桃山時代、九州のキリシタン大名の名代としてローマ教皇の許に派遣された4人の少年がいました。このプレ・イベントでは、少年たちの長い長い旅路の逸話、その背景・成果についてのレクチャーに加えて、当時の音楽を実際に参加者といっしょに歌ってみます。

◎レクチャー

白井 純 (信州大学人文学部日本語学分野 准教授 / 日本語史・キリシタン版・印刷技術史)

濱崎友絵 (信州大学人文学部芸術コミュニケーション分野准教授 / 音楽学)

信州大学人文学部学生有志

2019年1月29日 (火) 19:00-20:30

まつもと市民芸術館 小ホール

入場無料・ご予約不要

●お問合せ

松本市音楽文化ホール  
0263-47-2004 / info@harmonyhall.jp

信州大学人文学部白井研究室  
0263-37-2251 / jshira@shinshu-u.ac.jp

主催：松本市音楽文化ホール、信州大学人文学部



サカラメンタ提要

Manuale ad Sacramenta Ministranda、1605年長崎刊  
(東洋文庫所蔵 / 『サカラメンタ提要 長崎版』 勉誠出版、2014より転載)



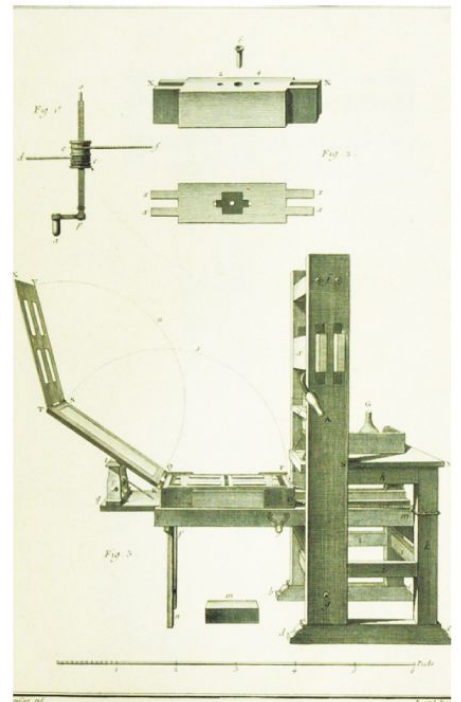
天正遣欧少年使節の肖像画（京都大学図書館所蔵／同館ホームページより転載）

2月2日、松本市音楽文化ホールで「天正遣欧少年使節の物語」というコンサートが開かれます。安土桃山時代、九州のキリシタン大名の名代としてはるばるローマ教皇の許へ派遣された4人の少年たちの物語を、彼らがヨーロッパで見聞きし、日本に持ち帰ったであろう音楽と共に聴くコンサートです。信州大学人文学部では、ホールとの共同プロジェクトとしてこのコンサートに連動したプレ・イベントを企画しました。

天正遣欧少年使節の成果は数多くありますが、人類のもっとも偉大な発明とされる西洋式の活字印刷機とその技法を日本にもたらしたことは、案外知られていません。その技術を用いて出版された語学書・宗教書・文学書が、「キリシタン版」です。その一つ「サカラメンタ提要」はカトリックの典礼書でミサで用いられた音楽の楽譜も含まれ、今回のコンサートでもそこから何曲か歌われます。

キリスト教の教理はもちろん、美しい音楽もまた、広く普及させるためには「印刷」という技術が必要でした。その技術とは……？

信州大学の学生たちといっしょに天正遣欧少年使節の背景を探ってみましょう。コンサートが100倍楽しくなることをお約束します。



活版印刷機（大阪府立図書館所蔵「フランス百科全書図版集」より転載）



語りと音楽でつづる

## 「天正遣欧少年使節の物語」

2019年2月2日（土）16:00  
松本市音楽文化ホール

出演：古楽アンサンブル「アントネッロ」、  
彌勒忠史、上杉清仁（カウンターテナー）、  
中嶋克彦（テノール）、坂下忠弘（バリトン）、青木裕子（語り）

お問合せ：松本市音楽文化ホール 0263-47-2004

公式ページ：www.harmonyhall.jp

公式 facebook ページ：www.facebook.com/harmonyhall.jp/